

はじめに

熊本市は古来より、「水の都」、「森の都」と謳われ、67万市民の上水道源を賄う清冽な地下水と金峰山や立田山に代表される美しい緑に恵まれ、さらに熊本城を中心に、歴史的な文化遺産が数多く点在する、自然や歴史的環境豊かな都市です。ここで暮らす人々はこの恵まれた生活環境の中で健やかな生活を享受してきました。

しかし、20世紀後半のめざましい科学技術の発展及び人的・物的交流の拡大は、私たちの生活に飛躍的な豊かさや便利さをもたらした反面、多種多様な化学物質による環境汚染や生態系への影響また食の安全や新興感染症問題など環境保全や保健衛生に関する新たな問題も提起しています。

そこで、研究所は、熊本に住む人々が将来にわたって豊かな環境の恵みを享受でき、健やかな生活を送ることができるよう、平成21年度からの新たな都市像『湧々都市くまもと』の実現に向け、環境保全や保健衛生の新たな課題に積極的に取り組んでいくこととしております。

当研究所に対します関係各位の方々のご指導、ご支援を心よりお願いいたします。

ところで、今年は中国産冷凍ギョウザの農薬混入問題に端を発して、食品偽装問題、汚染米の不正流通、カップめんの異臭問題等々、食の安全を脅かす問題が次々と起こりました。事件が起こるたびに、これまであまり知られていなかった化学物質の名前が新聞に登場してきました。メタミドホス、ジクロロボス、アフラトキシン、メラミン、トルエン、パラジクロルベンゼン等、日ごろ化学分析で化学物質に慣れ親しんでいる我々でもなぜこのような物質が食品に、と強い疑念を抱かざるを得ませんでした。

故意による犯罪なのか、事故であるのか、その原因が不明のままこのような化学物質の混入問題が発生するようであれば、今後、原因物質の検査に加え、その由来を明らかにするための科学的検索も必要になってくるかもしれません。

ここに平成19年度の所報を発刊いたしました。ご高覧いただき、ご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年11月

熊本市環境総合研究所長

田島 幸治